

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社 ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム 武芸川 あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡字白山331-1		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170900274&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に溶け込み、自然環境にも恵まれた中で、木造の家庭的な雰囲気ですべての利用者の安心と穏やかな生活を支援し、全職員が利用者本位のケアを心掛け、環境作りに努めている。家族会が組織され、家族間の交流もあり、家族が他の入居者とも交流し、入居者も自然と話しやすいホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって、安心して暮らせるホームを目指した運営者の思いが、全職員に浸透し、利用者からも、此处で最期まで、穏かに暮らしたいとの声が聞こえている。利用者本位のケアを実現するために、ホーム長を中心に職員間の連帯感を大切にし、チームワークを良くするためにいくつかの決まり事を定めている。職員の言動や表情は、利用者に対してストレートに伝わるので、日頃より心にゆとりを持つように意識を高め、気づきや意見を積極的に提言できる職場環境になっている。また、設立当初より、家族会が組織され、関連な意見を交わし、協力関係を築くことで、ホームの強力な応援者の役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は廊下の見やすい所に明示している。また職員会議の冒頭で全員で声に出して確認し、共有しながら利用者の気持ちに寄り添い、日々実践に繋げている。	地域の中で、共に支えあい心から喜びが感じられるように、管理者と職員は、会議の度に理念を確認・共有しながら日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、地域との交流を目指して努力している状況である。昨年はボランティアとして地域の方々に来ていただき、少しずつであるが交流できている。	地域の個人及び団体のボランティアが、草取り、演奏や歌、劇などで訪れている。民生委員や自治会員の理解や協力があり、地域との繋ぎ役を引き受けてもらい、交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々や琴や三味線の演奏や、歌に劇等々に来ていただけた時は皆で大合唱となり、心がつながった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業報告に対する評価や、利用者・家族からの意見を聞き、検討した結果を事業運営に反映させている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に行われ、市の職員が、かならず参加している。重度化したケアの困難事例を検討したり、ホームの役割りを地域に発信するための意見を聞いて運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が必ず出席し、情報交換を行っている。また市の担当者は家族会議にも出席してもらい、行政の情報や助言を受けている。	市主催の会議には、毎回参加している。地域包括支援センターから、介護情報・研修情報を受けたり、ホームからは、空き情報の提供や生活保護での入居要件になどの相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為をしっかりと認識しあい、職員相互で気をつけている。日中は鍵をかけないので利用者は自由に出入りをしている。職員の見守りで対応している。	事業所は、身体拘束の排除の方針に掲げ、実践している。これまで、具体的な例はないが、やむ得ず必要が生じた場合は、家族の同意を書面で得ることを定めている。日中は、玄関の鍵を開放し、出入りは自由になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で高齢者虐待について考えたり、日常生活に於いても虐待が見過ごされないように注意を払って防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講したりしているが、具体的にそれを活用できるような支援は今のところ、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を行う際に利用者・家族等の不安や疑問点を伺うと共に、分かりやすい口調で説明をしながら、理解・納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関のところに「ご意見箱」を設置したり、おやつの中には利用者の傍に職員も座り、一緒におやつを楽しみながら会話をする。日常の会話の中から利用者の思いを感じ取ったり、状態把握を行っている。また、定期的に外部から介護相談員を受け入れている。	利用者・家族が、意見箱を活用することは無いので、会話の中から聴き取っている。また、家族会で取り上げた重度化への取り組みや医療対応などの意見を運営に反映させている。	利用者・家族の意見は、その内容や対応を把握し共有するためにも、記録に残すことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の職員会議や代表者や管理者も含めた全職員で年1回親睦会を行って、相互の意見を聞いたりして運営に反映させている。	毎月全体会議が行われ、職員からは、多様な意見が出されている。困難事例の取り扱いに関することや、勤務調整、献立内容の検討など、気づきを取り上げ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務に対する取り組み姿勢を大いに評価し、各自が希望を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格が取れていない職員にはヘルパー2級の資格取得を実施していただき、認知症実践者研修等にも順番に出席していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しているので、支部会出席の折や他の研修に参加したときに同業者と意見交換や情報交換・交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の希望を聞きながらホーム見学を繰り返し、本人が納得されてからサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の都合がつく範囲で面接し、関係作りを図りながら傾聴に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネ、他の職員も交えてサービスの利用について検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話を中心に声かけを絶やさずに行い、孤立しないように一緒に行動しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会での話し合いや、来訪の際に近況報告をしたり相談を受けたりと、常に身近な存在で協力し合って本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の際には馴染みの人に会って来てもらったり、友人知人にも遊びに来てもらったりして、今までの関係が途切れないように支援している。	地域密着以前の遠隔地からの利用者が減少し、地元の利用者が増えており、近くの、知人・親戚・同級生が時々遊びに来ている。馴染みの美容院、菓子屋、化粧品店、喫茶店などに出かける機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各自の相性や好みや癖等を把握し、居室や食堂・居間での座る位置を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方より、退去後も外出の際の支援がしたいと申し出がありました。また運営推進会議にもO. Bとして出席して頂く		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一所にお茶を飲みに出かけた時にゆっくり話をしたり、本人の誕生日のプレゼントと一緒に買い物に行って品物を選ぶなどしている。	喫茶店に行きたい、誕生日にはケーキを食べたい、飲酒・喫煙を自由にしたいなど、利用者と職員で交わす日常生活のコミュニケーションの中から、利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話や動作の中で利用者の今までの生活環境等を把握し、その情報は職員全員で共有して、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の毎日のケース記録・バイタルチェック・主治医とのやりとり等、生活記録をしっかりと記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議で本人の状態を話し合い、本人・家族の意見も取り入れて介護計画を作成している。	職員会議で、モニタリングした内容を検討しながら、本人や家族の意向も取り入れ介護計画を作成している。また、3ヶ月毎との定時見直しと、状態の変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人ケース記録やミーティングでの情報を共有し、利用者の小さな変化にも対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて病院受診、外出支援、行楽地などへの日帰り旅行を支援している。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元地域のボランティアなどきていただけるようになり徐々にではあるが、交流ができつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族と共にケアマネや職員が同行し利用者の状態説明をしたり今後の治療方針を家族と共に検討し介護に生かすようにしている。二つの協力医院から、それぞれ月2回の往診を受けている。	利用者が、適切な医療を受けられるように協力医と看護師でケアマネジャーの職員が連携を取り支援している。2つの協力医からは、月に2回の往診があり、歯科医も要請に応じ、随時往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、申し送りをし気づきや、情報を共有出来るように努めている。医療連携体制が出来るようにしていく必要がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時なども随時病院に行き、状態を把握し、家族とも相談するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族の意向を聞いたり話し合ったりしているが、重度化した場合は、介護施設や医療機関に移ることを基本にしている。重度化への移行期に於ける介助、介護方法の心掛けやマニュアルの整備が必要である。	重度化に向けた方針については、入居時と経過の途中で家族との話し合いが行われている。ホームで対応ができなくなった時点で、介護施設、医療機関へ移ってもらうことを基本にしている。	家族からの最期まで見てほしいとの願いに応じるには課題が多い。マニュアルを整備し、終末期に向けた、早い段階からの取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回避難訓練時に地元の消防署に来ていただき応急処置、AED使用方法など訓練している。応急手当の方法のファイルは、すぐに参照、閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練時に地元の消防署に来ていただき、指導、助言をお願いし全職員、全入居者が参加しているが、地域の防災訓練などにも参加していくことが、必要である。	消防署の指導の下で、年2回の防災避難訓練を実施しており、応急処置法やAED(自動体外式除細動器)の使い方、消火器の扱いなどの指導を受けている。防災の日には、地域と合同の訓練に参加を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ介助では暖簾を掛けたり、扉をしめて行うようにしている。声掛け、言葉遣いを配慮するようにしている。	利用者一人ひとりの、人格を尊重しながら、羞恥心やプライドを損ねないように、言葉づかいに注意し、ミーティングの中で、全職員に周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物は、メニュー表から選択出来るようにしている。日常的に会話を大切にし、月に1回「おやつ会」を開き、気軽に話が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつなど共にし、日常的に会話し、一人ひとりのペースで過せるように見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの馴染みの衣類を着用し、季節に合わせた衣類の入れ替えを行っている。定期的に理容師の方に来ていただいて散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食器があり、本人が、使い易いスプーンなどを使用し、職員も一緒に食事しながら、出来るだけ自分自身で、食事が摂れるように支援、見守りしている。下膳、お膳拭きなど利用者で出来る方にははしていただいている。	利用者と職員は、同じメニューと一緒に、時間をかけてゆっくり摂り、誤嚥に配慮して食事に集中できるように見守っている。利用者は好き嫌いも無く、食欲も旺盛であり、一部の人は、下げ膳やテーブル拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、していないが、一人ひとりの状態に応じて刻み食にしたり、量を調整している。月に一回体重測定を行い状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、声掛けや義歯清掃など口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を作り、時間をみながら声掛けや、介助をして失敗が、少なくなるように支援している。	排泄チェック表で、一人ひとりのパターンを把握している。5人の利用者は自立度が高く、さり気ない誘導に心がけている。便秘の人には、下剤や栄養剤を工夫することで、腹痛を伴わない快適な排便に効果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせた働きかけをしたり、刻み食などにしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施し、入浴順は、いつも同じにならないように順送りになるようにしている。檜の湯船であり、全体が木造りで、皆に喜ばれている。	高齢化と自立度の低下により、就寝前に入浴から昼間の時間に変更されている。男女別の日替わりの順番で不満が無いように支援している。入浴嫌いの人は無く、檜の浴槽に入るのが楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は、本人のペースにしており、午睡などしやすいような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違い、飲み忘れなどないように服薬チェックをし、毎朝、本人と話しながらバイタルチェックをして体調、症状の変化の確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いをしたり、一人ひとりが、出来ることをしている。外出行事などを楽しんだり、音楽療法士、落語やボランティアの来訪を楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、近郊を散歩したり、喫茶店などに出かけている。外出行事など年に数回行い、家族と協力しながら、全員が、外出出来るようにしている。	ホーム周辺に散歩コースがあり、30分から1時間かけて、日常的に出かけている。近郊の公園や名所、季節のイベントにも、家族会の協力を得ながら、外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ホームで管理しているが、外出時など、本人の希望する物など買ったり出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、電話は自由には、使用できないが、本人から要請があれば、取次などできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で落ち着いた共用空間があり、リビングは、大きな窓で、季節を感じる風景を眺めることができ、縁側にも出ることが出来る。トイレ、風呂等は、大げさな表示ではなく認識できるようにしている。不快な音や光などもない。	共用空間には、季節の花を飾ったり、ひな人形を飾り生活感を採り入れている。居間の前庭には、チューリップや野菜を植えて、成長が見えるようになっている。また、居間には、テーブル炬燵を2箇所設け、利用者のくつろぎと団欒の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やクッションなどそれぞれに違い、テーブル(炬燵)を2か所設置し、それぞれで過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口は、異なる模様の暖簾を掛け、入口を開けていてもプライバシーを守れるようにしている。畳敷きであり、布団を敷いてもよく、それぞれに使い慣れたものや馴染みの衣類などが使用できるように押入れなど本人が、使用し易い範囲で配置している。	利用者が1人になりたいとき、落ち着いたある馴染みの物を備えた心地よい空間となっている。利用者の多くは、昼食後の一時を昼寝の時間にして、安らぎのある暮らしの部屋になっている。たまに帰宅しても、早くホームに帰り、居室でゆっくりしたいとの声が聞かれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた居室内の物品の配置をしたり、手すりを取り付けている。		